

農試第 143-5 号
令和 2 年 6 月 30 日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病虫害発生予察注意報第 1 号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

| |
|---|
| 連絡先 福井県農業試験場 病虫害防除室 TEL 0776-54-5100(代表) 0776-54-9315(直通) FAX 0776-54-6403 E-mail byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp |
|---|

令和 2 年農作物病虫害発生予察注意報第 1 号

6 月下旬の水田周辺雑草地における斑点米カメムシ類の生息数は、県下全域で平年よりかなり多い。また、暖冬により、クモヘリカメムシの越冬量も多い。さらに、平年より早く、水田内への侵入が確認されている。今後もカメムシ類が増殖することが予想され、斑点米が多発生する恐れがある。このことから、斑点米カメムシ類の徹底した防除を強く喚起するため、注意報を発表する。

病虫害名 斑点米カメムシ類

1 注意報の内容

発生時期：成虫の本田侵入最盛期は 7 月 5 半旬

被害程度：少発、局多発

発生量：平年、前年より多い

2 注意報発令の根拠

- (1) 県内 25 地点における水田周辺雑草地でのすくいとり調査 (50 回振り) では、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメおよびクモヘリカメムシ等が、1 地点当たり、36.9 頭で、平年 12.1 頭、前年 9.5 頭よりかなり多い。
- (2) 県内 40 地点におけるフェロモントラップ調査でのクモヘリカメムシの発生は、発生確認地点率が 47.5% と高く、多い所では、6 月 19 日～25 日の 7 日間に計 111 頭が捕獲されている。
- (3) アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメなどカスミカメムシ類の第 2 世代成虫の発生最盛期は平年並みの 7 月 5 半旬頃と考えられ、早生の穂揃期と一致すると予想される。

3 防除対策

- (1) カスミカメムシ類の幼虫の発生時期にあたる7月上旬までに、畦畔や水田周辺の雑草地等の草刈りを徹底し、増殖を抑える。ただし、出穂期頃の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を助長するので行わない。
- (2) 水田内の雑草は、カメムシ類の水田内への侵入を助長するので除草を徹底する。
- (3) オオムギ跡の雑草地では、斑点米カメムシ類が繁殖しているため、7月初めまでに草刈り等を行うとともに、隣接している水田では、出穂期以降の防除を徹底する。
- (4) 山沿いの水田ではクモヘリカメムシの発生が多く、8月下旬まで発生が続くので、発生が多い場合は追加防除を行う。
- (5) 農薬の散布にあたっては、適正な使用方法の厳守、周辺居住者等への事前周知および飛散防止に努める。

《粉・液剤での防除》

- (1) 穂揃期～乳熟期（出穂3～5日後頃）と糊熟初期（出穂10～14日後頃）の2回薬剤散布を行う。
- (2) 斑点米カメムシ類は、日中はあまり活動しないため、夕方か早朝に薬剤散布を行う。

《粒剤での防除》

- (1) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が異なるので注意する。
- (2) 散布時は水深3cm程度の湛水状態とし、3～4日湛水した後、自然落水する。

《追加防除》

農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除を行う。

◎ 収穫7日前まで使用できる薬剤

エクシード粉剤DL
トレボンスター粉剤DL
トレボン粉剤DL
MR. ジョーカー粉剤DL
スタークル粉剤DL
アルバリン粉剤DL
ダントツH粉剤DL

◎ 防除対策の詳細は、令和2年度福井県農作物病害虫防除指針 p31～35 参照。